
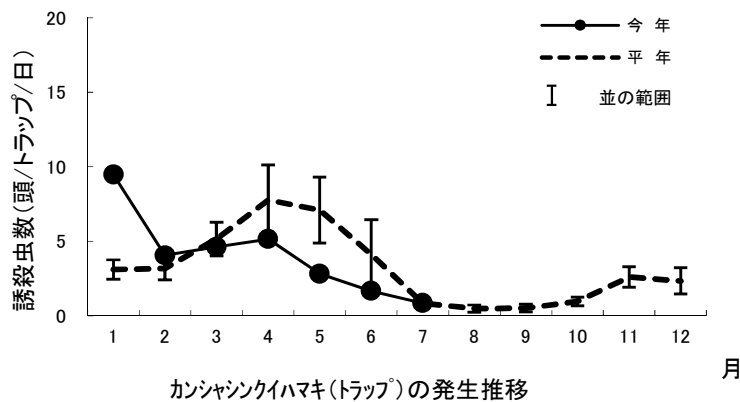


作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ)		
7月の発生量(現況)	並		
8月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、7月より発生量は減少すると考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



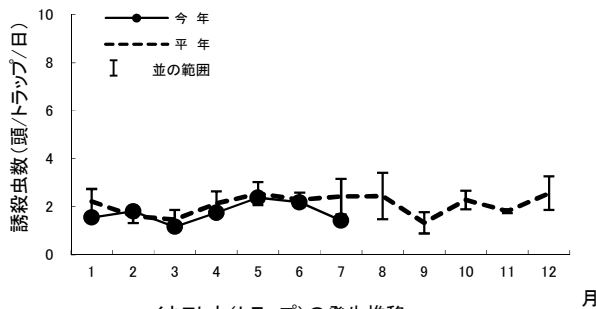
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日) : 0.8 (前年0.5、平年0.8、判定「並」)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類) : 少発生(波照間島、与那国島)

防除のポイント

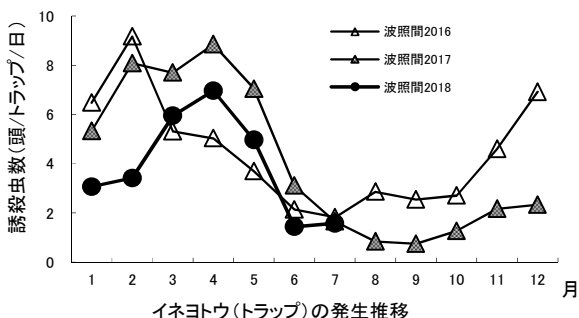
- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
7月の発生量(現況)		やや少	
8月の増減傾向		→	
増減傾向の根拠		トラップ誘殺虫数の平年の発生推移から、7月と同程度の発生量と考えられる。	

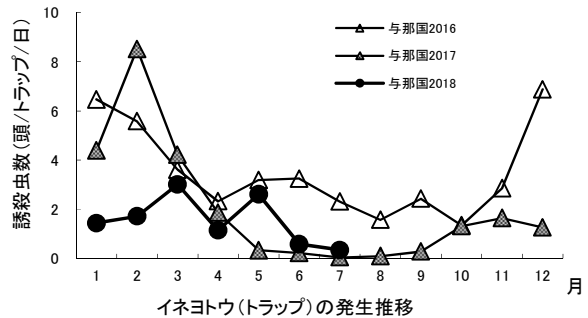
発生量の根拠(調査結果)



イネヨトウ(トラップ)の発生推移



イネヨトウ(トラップ)の発生推移




イネヨトウ(トラップ)の発生推移

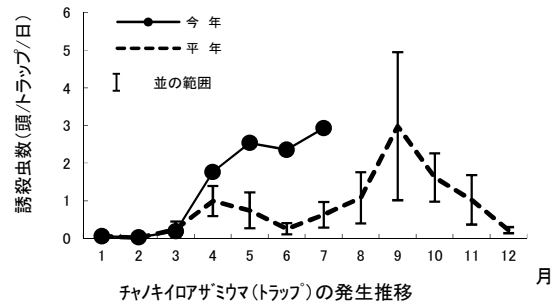
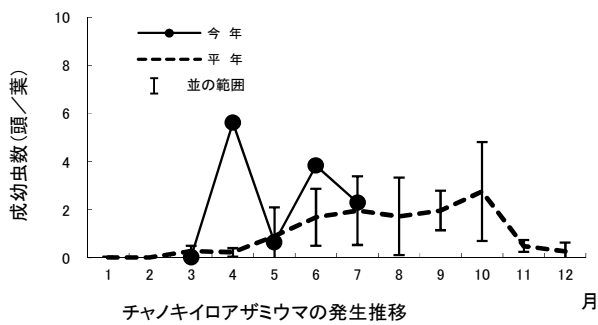
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(石垣市、頭/日) : 1.4 (前年1.1、平年2.4、判定「やや少」)
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(竹富町波照間島、頭/日) : 1.6 (前年1.7、例年1.2)
- ・ フェロモントラップ誘殺虫数(与那国町、頭/日) : 0.3 (前年0.1未満、例年0.8)
- ・ 防除員による報告(メイチュウ類) : 少発生(波照間島、与那国島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号参照。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
7月の発生量(現況)	並		
8月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、7月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)



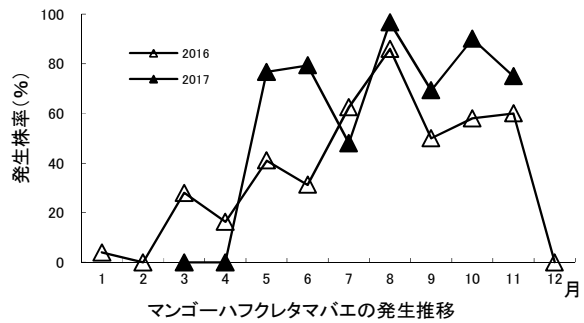
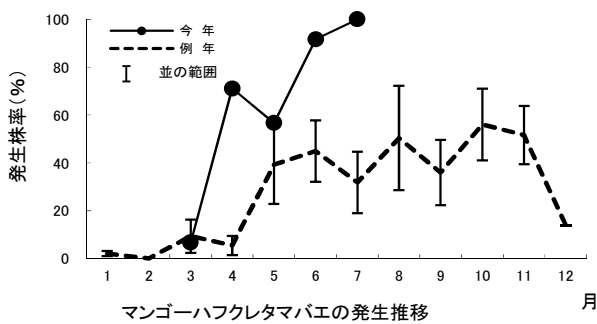
- ・ 調査地域：石垣市
 - ・ 新葉あたり成虫・幼虫数(頭/葉)：2.3(前年0.3、平年2.0、判定「並」)
 - ・ 黄色粘着トラップ誘殺虫数(頭/日)：3.0(前年0.2、平年0.9、判定「多」)
- ※一部施設で多発

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ 多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
7月の発生量（現況）	多		
8月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の例年の発生推移から、7月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



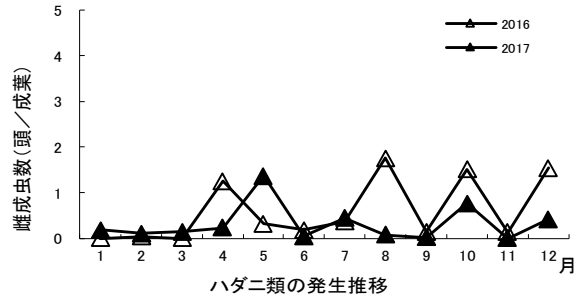
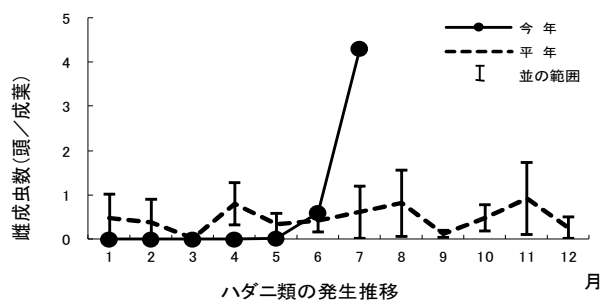
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発生株率 (%)：100.0（前年48.0、例年31.8、判定「多」）

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
7月の発生量（現況）	多		
8月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、7月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成葉あたり雌成虫数（頭/葉）：4.3（前年0.4、平年0.6、判定「多」）
- ・ 新葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0.4（前年0.5）
- ・ 発生種：シュレイツメハダニ
※一部ほ場で多発

防除のポイント

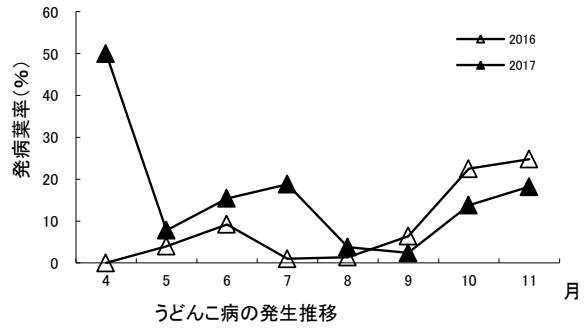
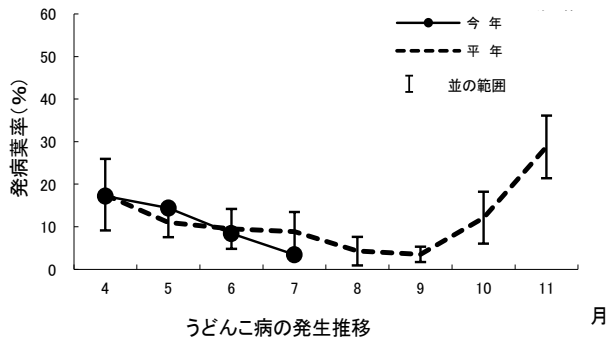
- ・ 収穫終了後の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
7月の発生量（現況）		やや少	
8月の増減傾向		↓	

増減傾向の根拠

発病葉率の平年の発生推移から、7月より発生量は減少すると考えられる。


発生量の根拠（調査結果）



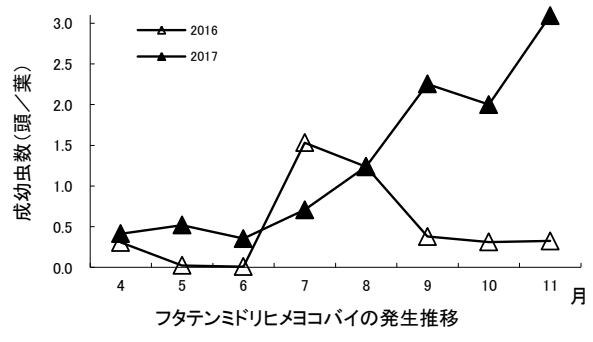
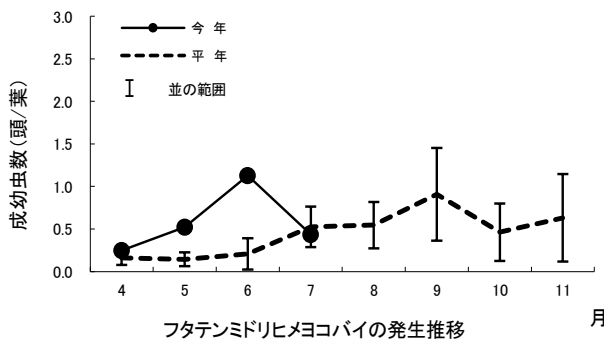
- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 発病葉率（%）：3.4（前年18.8、平年8.8、判定「やや少」）

防除のポイント

- ・ 不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- ・ 発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
7月の発生量（現況）	並		
8月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、7月と同程度の発生量と考えられる。		


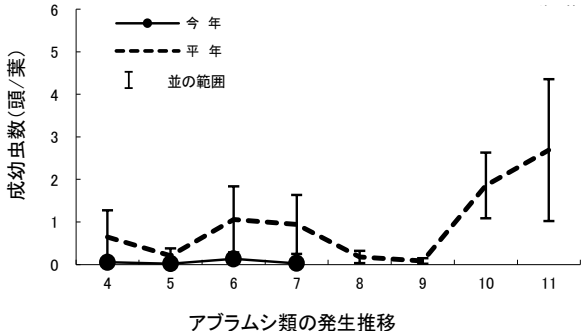
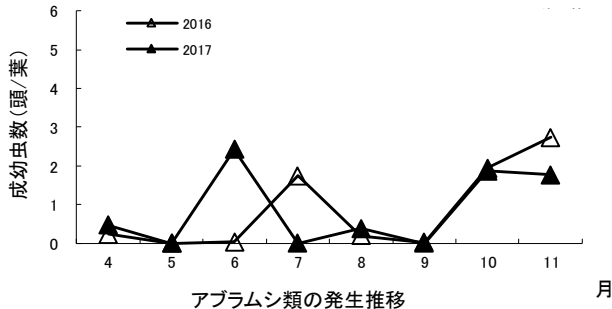
発生量の根拠（調査結果）




- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 成虫・幼虫数（頭/葉）：0.4（前年0.7、平年0.5、判定「並」）

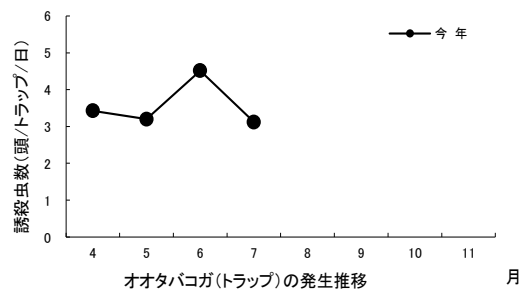
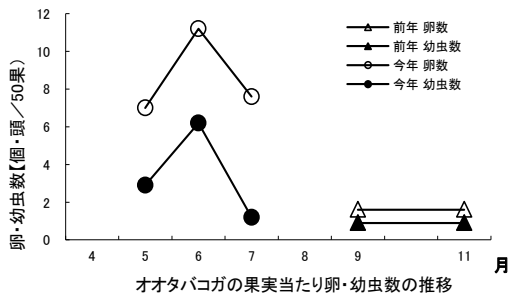
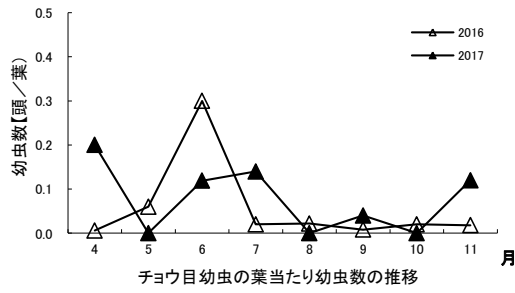
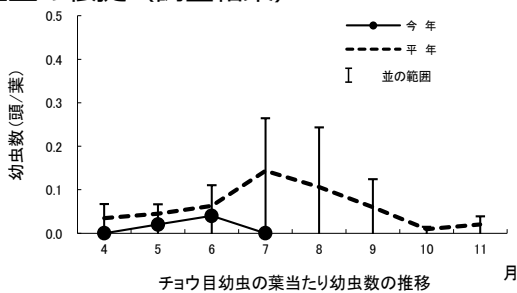
防除のポイント

- ・ 多発すると吸汁加害により葉の萎縮や黄化が進み生育が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
7月の発生量（現況）	やや少		
8月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、7月より発生量は減少すると考えられる。		
発生量の根拠（調査結果）			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>成幼虫数(頭/葉)</p> <p>アブラムシ類の発生推移</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>成幼虫数(頭/葉)</p> <p>アブラムシ類の発生推移</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査地域：石垣市 ・ 成虫・幼虫数（頭/葉）：0.1未満（前年0、平年1.0、判定「やや少」） 			
<p>防除のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生育が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。 ・ 発生源となるほ場内外の雑草を除去する。 			

作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	④ オオタバコガ		
7月の発生量（現況）		(発生なし)やや少	
8月の増減傾向		↘	
増減傾向の根拠		幼虫数の平年の発生推移から、7月より発生量は減少すると考えられる。	

発生量の根拠（調査結果）



- ・ 調査地域：石垣市
- ・ 葉当たり幼虫数（頭/葉）：0（前年0.1、平年0.1、判定「やや少」）
- ・ なお果実では、卵及び幼虫が確認された。
果実当たり卵・幼虫数（個・頭/50果）：卵7.6、幼虫1.2
- ・ トラップ誘殺虫数（頭/日）：3.1

防除のポイント

- ・ 発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・ 老齢幼虫では薬剤効果が低下するので、若齢幼虫期のかすり状被害を確認したら速やかに防除を行う。